

小中連携の取り組み

中央小学校と比布中学校では、両校が連携して義務教育の9年間を見通した学習指導を行っています。

町教育委員会では平成26年度から3年間、北海道の学力向上推進事業の指定を受け、小、中学校の連携、一貫教育の実践事業を進めてきました。その実践校として比布町立中央小学校と比布中学校で、義務教育の9年間を見通した学習指導や生活指導を連携して行っています。

町内には保育所、小学校、中学校が1か所ずつしかないため、びっぴの子どもたちは幼いころから中学校を卒業するまでの時間をほぼ一緒に過ごします。これまでも両校での連携はあったものの、義務教育の9年間で子どもを育てるということを町と学校が連携して総合的に考える機会はありませんでした。この取り組み

みにより、教育の現場だけではなく、町全体で子どもを育てる環境が整いつつあります。

9年間の義務教育で目指す姿

町では教育の目指す姿として「心豊かに学び 新世紀のふるさとを拓く人を育む」と掲げ、義務教育の総仕上げである中学3年生では「生きる力を身につけ 他者と共によりよく生きる」ことを目指しています。

生きる力とは、「知・徳・体のバランスがとれた力」。変化の激しいこれからの社会を生きるため子どもたちに、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく身

につけ、思いやりを持って生きられるよう、小、中学校が共通認識を持ち、課題や目標を共有することで、その実現に近づけていきます。

乗り入れ授業

平成26年度から始まった小中連携の取り組み。初年度は連携教育推進協議会を立ち上げ、先進的な地域を視察し、準備を進めました。

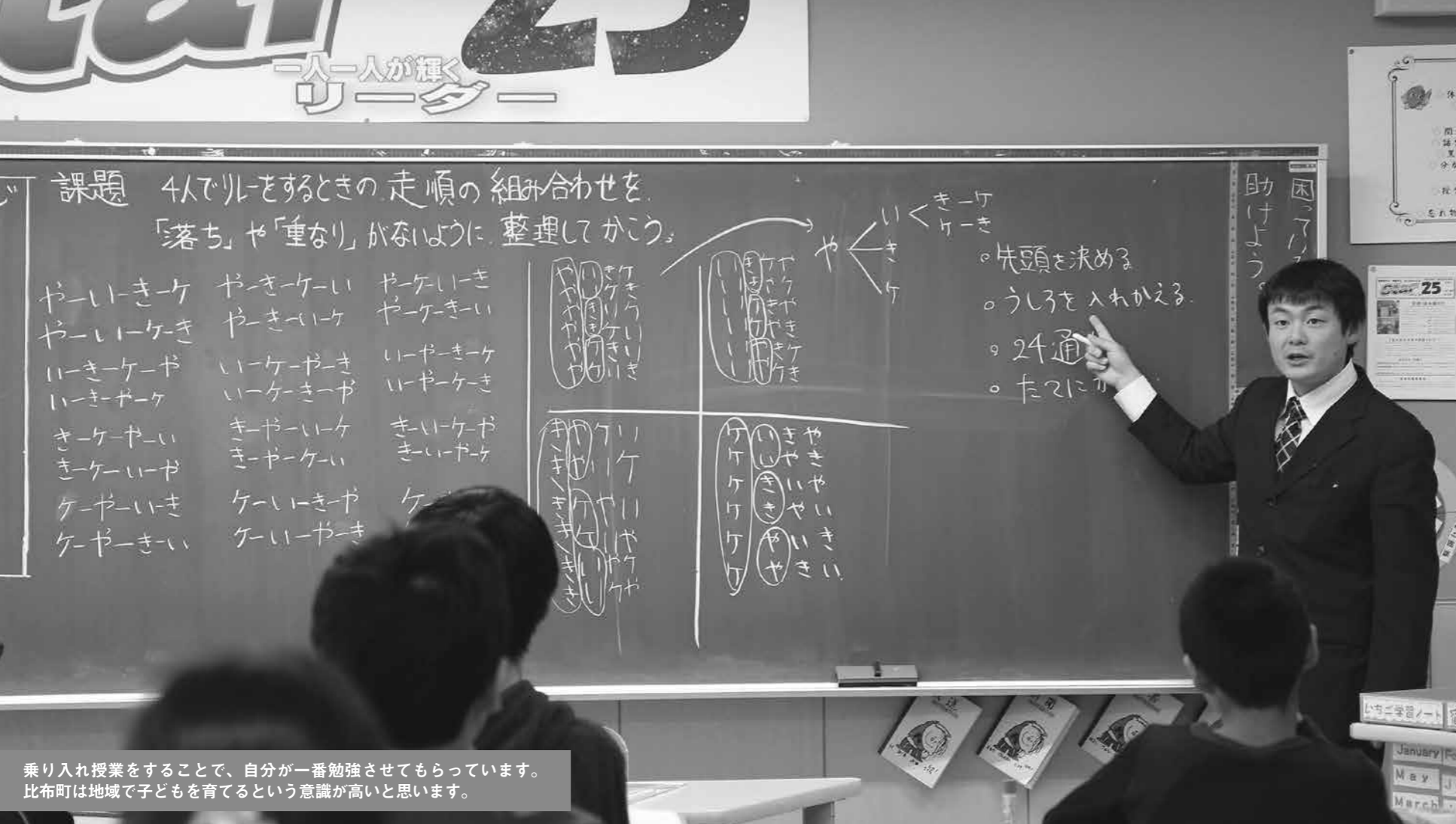
協議会は学習、生徒指導、研修の3つのチームに分かれ、児童生徒の学力分析や生活リズムのチェック、合同研修会などを開催しています。

2年目には、小学校と中学校の教諭を互いに派遣する「乗り入れ授業」



乗り入れ授業で中学生に美術を教える中央小 木村文香教諭

授業をとおして身の回りにあるデザインなどに興味を持ち、生活を豊かにしてほしいと思います。



乗り入れ授業をすることで、自分が一番勉強させてもらっています。比布町は地域で子どもを育てるという意識が高いと思います。

乗り入れ授業で6年生に算数を教える比布中 深澤耕平教諭

もたちに還元し、学力の向上はもちろん、学ぶことの楽しさを伝えていきたいです」と、深澤教諭。これからの課題を尋ねると「授業が終わったら次の授業のため中学校に戻らなくてはいけないので、子どもたちの質問にじっくりと答えられる時間が設けられるといいですね」と教育現場の声を聞かせてくれました。
中学1年の本多桃子さんと瀧本好花さんは、6年生の時に乗り入れ授業で深澤教諭から算数を習いました。
「先生が、習っていることが中学校の授業でどのようにつながっていくかを教えてくれました。中学生となり、数学の授業でそのつながりを感じ出すことがあります」と瀧本さん。本多さんは「中学校での生活をイメージすることができました。入学した



本多桃子さん（写真左）と瀧本好花さん

中学校は楽しいよ〜！
乗り入れ授業で小学校の先生に会えるのもうれしい！

時に知っている先生がいたので安心しました」と話し、「他の教科にも広がったらい」と二人は笑顔を見せました。
また、小田雄斗くん（6年）は、「難しいときもあるけれど、中学校で習うことや学校生活などを教えてくれるので、うれしい。中学生になるのがとても楽しみです」と期待に胸をふくらませていました。

さまざまな実践事業

乗り入れ授業に加えて、中学校教諭が児童との交流を目的に行う「出前授業」を、6年生を対象に行っています。それぞれ年3時間の授業ですが、児童たちには好評で、授業後に行ったアンケートでは、8割以上の児童がよかったと答えています。「小学校でやっていないことや体育の知識を教わって楽しかった」、「専門の先生からアドバイスがもらえ、た



小田雄斗くん（中央小6年）

中学生になったらソフトテニス部に入りたい！